



平成25年4月発行
春号みどり



21世紀の精神科医療とは

理事長・院長 太田 正幸

21世紀の精神科医療を語る前に、我が国における精神科医療および精神科病院の変遷を知っておく必要がある。昭和31年11月1日明石土山病院は開業した。精神科病院は医療と保護の役割をになっていると言われるが、その当時の精神科医療は誠に貧弱なものであり、精神科病院は主に他害や自傷の恐れのある人たちの保護を中心としていた。

以来57年がすぎ、精神科医療は薬物療法・カウンセリング・作業療法・看護技術の向上、社会復帰システムの充実も含めて飛躍的な進歩を遂げた。

1990年代初頭、私は日本精神科病院協会の学会で「21世紀における精神科病院のあり方」というシンポジウムで「21世紀におけるキーワードは少子・高齢化である」という発表を行った。

21世紀になって、約12年が過ぎたが、この当たり前の事実はその通りになっている。

加えて、先に述べた治療や社会復帰システムの飛躍的な向上があり、外来治療は必要でも入院治療は必要でない患者様が増加してきている。また、入院治療が必要でも、3か月以内に退院可能となる方々が増加している。

もはや、明石土山病院のように403床ものベッドはその役割を終えつつある。私は、理想的に言えば精神科の病床は、精神科病院と「精神保健施設(仮)」に分かれていくべきだと常々考えてきた。精神科病床は長年医師数に関しては患者様48名に対して1名という特例があり、精神科の入院費用は低く抑えられてきていたが、厚生労働省は、1病棟でも、一般病院並みに、患者様16名に対し1名の医師を配置し、3か月以内に退院するような病棟を作れば、点数を引き上げるという案を提示している。医師数が増加すれば、治療はより濃厚なものになり、入院日数を削減できるので、結果として、患者様やそのご家族には経済的負担をお願いしなくてもよいこととなる。

私は、「医療機関や福祉施設は患者様、利用者様及びご家族様の為にある」という考え方のもと経営と医療を行ってきた。今後も患者様、利用者様及びご家族様の為、精一杯努力を傾注していきたい。



平成25年3月5日(火)

新病棟 上棟式

新病棟概要

現在、約1,700㎡のゆとりある面積で病棟を建設中です。60床の病棟を予定しており、病棟内はパーティションで男性(30床)・女性(30床)を分けられるよう工夫されています。4人部屋の他、個室も多く確保されており、新しい病棟でしっかりと療養して頂き、早期回復を目指していきます。また、新病棟の2階部分に渡り廊下を建設し本館との行き来が出来るようになります。MRI・光トポグラフィー等最新の検査機器も導入を検討しております。将来は4階建になる基礎を有していますので2期工事では2～4F部分を建築する予定にしております。尚、右の写真は3月に行われた上棟式のもので、建設は順調に進んでおり、6月末完成予定です。



〒974-0074
 兵庫県明石市魚住町清水2744-30

TEL:078-942-1021
 FAX:078-941-1573
 E-mail:info@athp.jp

基本理念

『人間愛に満ちた医療と愛情こもる看護・介護』



医療法人社団 正仁会

明石土山病院・介護老人保健施設 希望
 つちやま訪問看護ステーション・宿泊型自立訓練事業所 みどり寮
 共同生活援助事業所 グループホーム ノア

ホームページも是非ご覧下さい
 PCサイト・スマートフォン
<http://www.athp.jp/>
 携帯サイト <http://www.athp.jp/i/>

